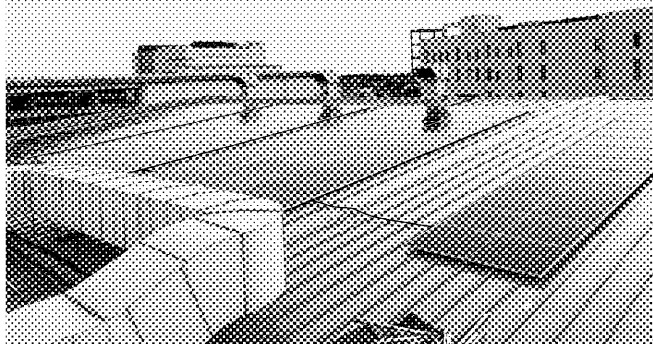


太陽光パネル増設

アイコクアルファ



アイコクアルファは本社エリアの全工場に太陽光発電パネルを設置する方針だ

22年から23年にかけて稼働する計画だ。て、本社のある愛知県稲沢市内のほぼ全ての工場屋根に太陽光発電パネルを設置した。工場以外にも東京営業本部を置く柏営業所（千葉県柏市）でも2月に発電を始めたほか、9月には大阪営業所（大阪府摂津市）にも設置を予定。すでに設置済みの本社ビルと合わせ、事務所と工場の計8カ所で太陽光発電が

脱炭素化対応だけでなく事業継続計画（BCP）や電力確保の観点でも寄与が見込めそうだ。

電気代抑制にも貢献

また最近では燃料費の高騰を受け電気料金の上昇も著しく、経営を圧迫する要因となっており、一部を自家発電に切り替えることで「電気料金面でも、ある程度は貢献している」と話す。

【名古屋】アイコクアルファ（愛知県稲沢市、樋田克史社長）は、自社工場や営業拠点で太陽光発電パネルを増設した。2023年の発電容量は21年比で8・5倍の1953・75キロワットに高まる計画で、年間発電量は238万3000キロワット時を見込む。全社電力使用量の4・7％をまかなえる計算だ。脱炭素化への取り組みが不可欠となる中、再生可能エネルギーへの切り替えを徐々に進めていく。

年238万kW時
発電電

CO₂実質ゼロ目指す